

1,イスラムの国際商業ネットワーク

8~9世紀

ユーラシア・アフリカに広域の国際商業ネットワークを形成

ムスリム商人のほか、ユダヤ教徒・キリスト教徒・ヒンドゥー教徒・仏教徒など諸宗教の人々が従事

陸路⇒オアシスの道, 草原の道

┌東は中国=()1, 西はビザンツ帝国と

└西トルキスタンを中継地として西北()2とむすびつき

└南()3=(6世紀後半までにブルガール人等トルコ系緒族が展開)=では南下するノルマン人と交流

└アフリカでは, ()4砂漠を縦断して内陸部と交流

海路⇒地中海、ペルシャ湾ルート、紅海ルート、インド洋、ベンガル湾、南シナ海、東アフリカ沿海

┌()5海では, 北方のビザンツ帝国・西ヨーロッパと

└東方の海の道⇒()6湾あるいは紅海とインド洋をむすぶルート

ペルシア湾ルート---アッバース朝の首都バグダードのあるイラクとをむすぶ

└インド洋を東進⇒インド西海岸・()7で南アジアとむすび,

└()8湾海域でスマトラ島・マレー半島などの東南アジアとまじわり,

└南()9海を北上して中国の広州・泉州などに進出。船は木造縫合=[]10船

└ムスリム商人の東()11沿海交易開始

⇒イスラムの()12金貨がひろく流通

10世紀

バグダードが政治的に混乱⇒()13海ルートが重要化

地中海---()14島を拠点にイスラムの商業ネットワークが安定

香辛料・陶磁器など---インド洋⇒イエメンのアデン⇒カイロ⇒アレクサンドリア⇒イタリア商人

11~2世紀

()15諸都市=ヴェネツィア、ジェノバなどが東方貿易で栄え始める。

十字軍の東方遠征⇒東地中海から紅海に進出。

アイユーブ朝の()16はこの艦隊を撃破⇒マムルーク朝時代にかけて紅海ルートが繁栄

陸上の国際商業ネットワーク⇒アッバース朝衰退後, セルジューク朝などの勢力下に

ビザンツ皇帝・ローマ教皇⇒イスラムとの直接取引制限⇒()17商人の仲介。

13世紀

モンゴル帝国時代⇒中央ユーラシア世界(中国~西欧)の成立



ダウ船



ジャンク船



ガレー船

2,東南アジア諸国とイスラム

8世紀 中国に往復するイスラム商人の寄港地

10世紀 スマトラ島・マレー半島・チャンパなどでムスリムの()18地が成立
中国(宋)の商船も往来

シュリーヴィジャヤ 9世紀なかばに再建⇒()19(9世紀なかごろ~14世紀),

スマトラ島のマレー系海上交易国家。都パレンバンからジャンビに移る。

クデイリ(928~1222)・シシガサリ(1222~92)---()20島のヒンドゥー王国

鳥嶼部の香辛料などを港市に集め, 外国船と交易

文化⇒インド文化のジャワ化⇒ジャワ語文学やワヤン=クリット(操り人形の影絵芝居)

()21朝(1044~1287)---ピューの衰退後, ビルマ人が11世紀なかばに建国

支配下のモン人から文字・仏教を受け入れた。

12世紀末にスリランカの上座部仏教を学び, 上座部仏教圏を形成

()22朝=クメール王国(真臘=6~15世紀) 12世紀, 南シナ海交易を開始

ヒンドゥー教・大乘仏教を受容 都城の内外に多数の寺院

アンコール=ワット⇒[]23教ヴィシュヌ派の寺院

13世紀末 ()24王国(1293~1520)---ジャワ島最後のヒンドゥー教王国。

元軍を撃退して建国。スマトラの三仏斎を滅ぼし交易を掌握。

()25王国(1267~1521)=スマトラ島北端=の王⇒イスラムに改宗

→東南アジア初のイスラム国家

14世紀 イスラムが()26島にひろがる

15世紀 スマトラ島西部にイスラムの()27王国(1496~1903)建国。

マラッカ海峡の胡椒等の交易で繁栄。

マレー半島の()28王国(14世紀末~1511)がイスラム国家として発展

ヒンドゥー教・大乘仏教にかわりイスラムと靈魂信仰・呪術との共存・混交



ジャワ島のワヤン・クリット



パンダ・アチェの大モスク

- ・唐・紅・地中・居留・シナ・三仏斎・ロシア・ジャワ・インド・ユダヤ・アチェ・パガン
- ・サハラ・アフリカ・ベンガル・シチリア・イタリア・ペルシャ・スマトラ・マラッカ
- ・アンコール・スリランカ・ディナール・サラディン・マジヤパヒト・サムドラ=パサイ